



車検対応の電子制御音量可変マフラー ボタン操作でサウンドが3段階に!



スイッチひとつで音量が3段階に変わる!

ドコドコ感とパンチのあるサウンドの音量を、ハンドル左にあるスイッチひとつで自在に変えることができる。モーターによるサイレンサー内部のバルブ制御で排気音が変わり、開閉バルブが全閉の時は純正ノーマルマフラーより静か。車検対応JMCA認定としている。



JEKILL&HYDE

ジキル&ハイド
オープン価格

■問:トライジャ TEL.072-970-3110
<https://trijya.com/>

ドコドコと迫力のあるサウンドを、ノーマル並みの静かなサウンドに切り替えることができる電子制御音量可変マフラー。モーターでワイヤーを引き、マフラー内部のバルブを開閉することで音量が変わる仕組み。手元のスイッチを押すだけで、停車中でも走行しながらでも簡単に音量を3段階に変えることができる。

音を静かにしたいときはバルブをクローズ(全閉)にし、市街地などでは50%開きでほどほどに。迫力のサウンドを存分に楽しむことができるシチュエーションでは、100%オープン(全開)に使い分けできる。



The Jekill & Hyde社は、電子制御エキゾーストシステムの分野で最も急速に成長している製造業者およびサプライヤーで、世界で最高品質の電子制御エキゾーストシステムを製造。欧州型式認証を受けており CARB/EPA (アメリカ空気汚染基準当局) および TÜV (ドイツ技術監査協会) により検証されている。製品はドイツの技術とオランダの職人技の結晶だ。

50万円 でカスタム

外装のブラッシュUPで更に高まるカスタム感

ホームページに掲載されるオリジナルパーツを数えてみると、プレイアウト用だけでも160点、全体では436点もの数を誇るライジャだが、そのすべてがホリオンであることもユーザーにとって嬉しい部分だろう。このコースで紹介するパーツにしても、やはり細かな配慮が行き届いたもので、フロントフェンダーロアリングキットなどはさり気なくカスタムのクオリティを高めるのにかなり効果的。こうした細かな箇所をツメることで車体の完成度が左右されることを知る同店らしいプロダクツだろう。無論、ショートフェンダーキットやチンスポイラー、インパクト大な懸着バーなどで現装的に分かりやすく大きくイメージを変えることもカスタムの醍醐味である。



ショートフェンダーキット ¥280,500



後視バー 14インチナロー ¥99,000



フロントフェンダーロアリングキット ¥9,900

チンスポイラー ¥93,000



純正電熱シートアンコ抜き カスタムシート加工 ¥300,000



ツーリング系 電動補助輪 ¥523,600

80万円 でカスタム

ヘビーなツアラーも電動補助輪で楽々&安心

ここまで人気のソフトテイル系モデルに焦点を当て、ライジャのカスタムメニューを紹介してきたが、最後はツアラーモデル用の電動補助輪をピックアップ。コイツは、いわば社定車でいうところの「ランディングギア」と呼べるパーツでハンドルに備えられたボタンひとつで収納可能なのだが、あればヘビーなツアラーモデルがかなり楽に取り回せるようになる。慣れに自信のない方や高齢化社会の中でもバイクを楽しむ為のこうしたプロダクツを推奨し、ライナップに加える点もライジャが持つ強みだろう。予算的には少々値が高めかもしれないが、安全を最優先するよりはむしろ安心できる。またここではツアラー編がりで純正の電熱シートアンコ抜き&デザインもご紹介。こちらもオススメだ。

文字どおり“ハイエンド”カスタムも得意分野



変換なきハイエンドカスタム
ネオチャッパーやユーロスタイルなどハイテクなカスタムもライジャの得意分野。ランボルギーニをモチーフとした「レベリオン」と名付けられたこの一台もスタイルは勿論、上々の作りを見せる。



トライジャといえばバガースタイル
路上を走るだけで威風堂々としたインパクトを放つツーリングファミリー系モデルをベースにしたバガースタイルのカスタムもライジャが得意とするジャンル。このマシンのクオリティも王者である。



スポーツスターも守備範囲
トライジャといえばビッグフィンベースにしたカスタムの印象が強いのだが、じつはご覧のようなスポーツスターも得意とする分野。タンクやサイドカバーの立体的な安全に特効力がある。



1999年にトライジャを創業して以来、数多くのカスタムをデザインし、先み出してきた代々の両本柱の氏だが、じつはこのページで紹介したようなストックEDを満かしたカスタムも得意なメニュー。両者の豊富なパーツライナップもユーザー目線に合わせた。素晴らしい。

無難、ユーザーのオーダーによっては単純化した技術を持つメカニクスがハードメイドでワンオフパーツを生み出し、夢のようなカスタムを手掛けることが出来るのもトライジャの強みである。

十人十色という言葉があるのとおり、100人いれば100とおりに、自分だけのマシンを手に入れることが出来るのもハイエンドをベースにしたカスタムの魅力だが、何よりトライジャの守備範囲の広さがそれを証明しているといえるだろう。コイツを楽しむまなまなモットーでない。

カユイ所に手が届く豊富なラインナップ

H-Dに欠かせない“カスタム”をテーマに全体で50ページオーバーの大ボリュームでお届けした今回の特集ですが、そのトリを飾るトライジャといえばハイエンドからライトカスタムまで広い守備範囲に定評があるショップ。千差万別・皆様の好みに対応するコト必至デス!

プロがオススメするカスタムメニュー
トライジャ編

取材協力:トライジャ TEL 072-970-3110 http://trijya.com/

30万円 でカスタム

M8ソフトテイルベースで欲しいパーツ達を具現化

ショーの会場で見ると憧れするハイエンドカスタムや絶大なインパクトを誇るバガースタイルなど、羨ましいマシン制作のイメージが強い大塚のトライジャだが、じつはユーザー目線の細かなパーツラインナップにも定評があるショップ。ここではM8のプレイアウトを題材にまずは30万円コースというメニューでパーツをピックアップして「集めたのだが、まさに「カユイ所に手が届く」ラインナップとなっており、中でも「ウインカーを交換した場合に見えてしまう穴を隠す為のドレスアップパーツ」である化粧プレートは「あんなに欲しかったモノ」の典型。またヘッドライトを絶妙な位置に装着するステーや車検対応のマジックNANOウインカー用マウント、純正タンク用ストレッチカバーやナンバーのサイドマウントキットなどを装着すれば車用の表情もかなり引き締まるのでオススメだ。同様の予算なら思い切って油圧サスの装着もアリだろう。すべて車検対応だ。



ソロシートベーシック ¥82,700

ドラッグバーハンドル (670mm) ¥47,300

砲弾型ヘッドライトハウジング ¥57,800

NANOウインカーステー ¥8,800



ヘッドライトステー ¥25,300



エアクリーナーカバー純正対応 ¥47,300

リヤウインカー化粧プレート ¥6,500



M8ナンバーサイドマウントステー ¥40,700



M8 Softail用油圧サスペンション ¥250,800



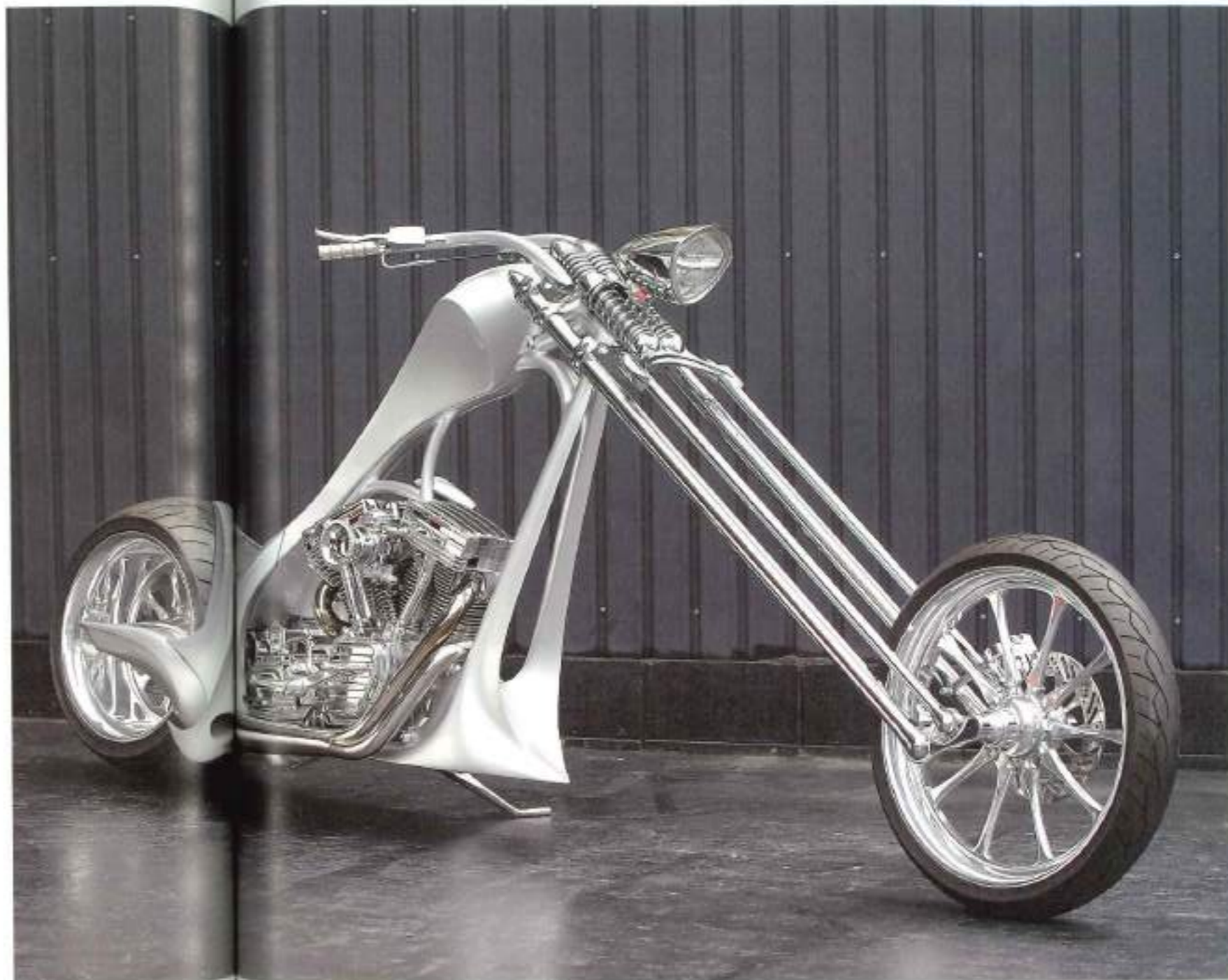
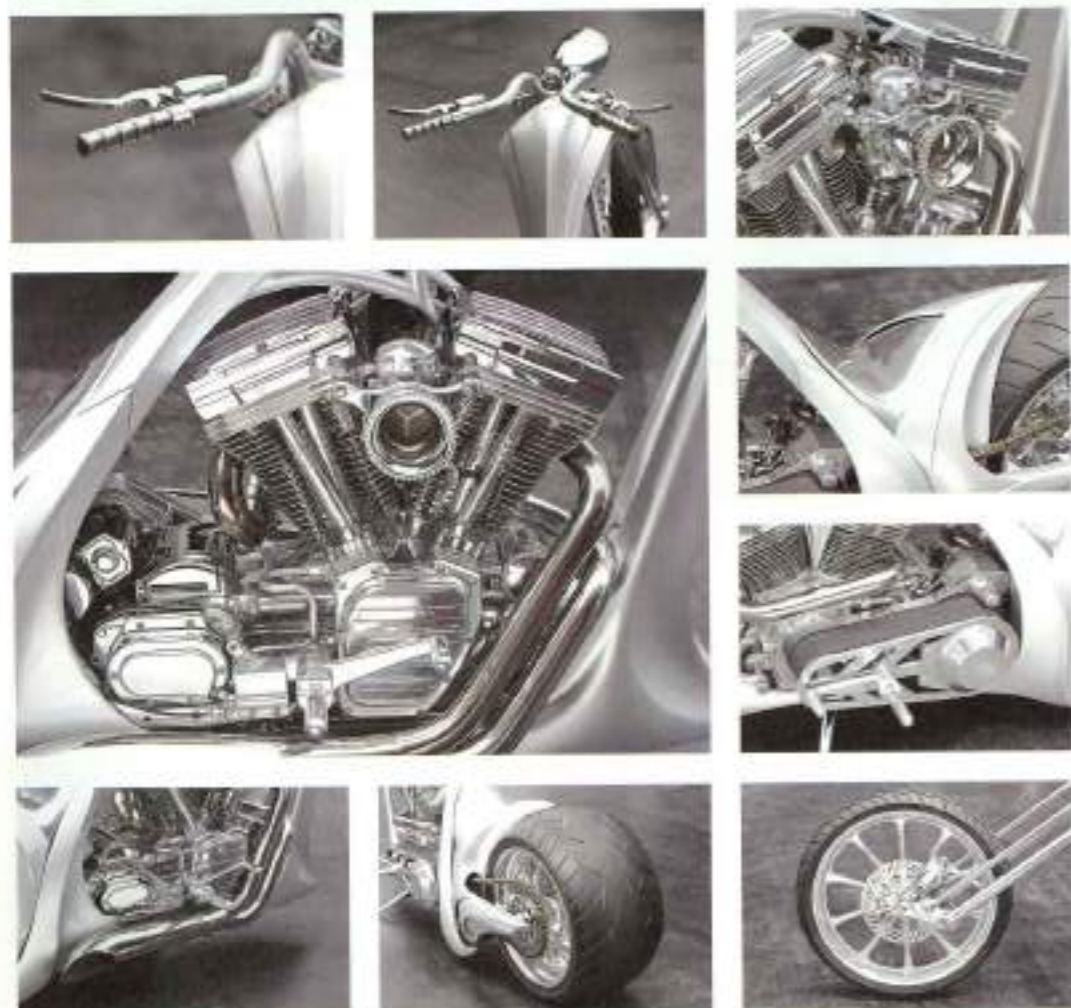
タンクストレッチカバー ¥19,800



美しいペイントを施した上で車体の様々な箇所に施されたギミックの数々が盛り込まれたハイエンド・カスタム……大阪に拠点を置くトライジャといえば、ショーの会場や雑誌を始めたという経緯に登場する車両から、冒頭で述べたような高級なマシンを手掛けるイメージを持つ方も多いだろうが、その実、今回のページで紹介するようなライトなカスタムメニューも得意分野。代表の岡本佳之氏といえは以前に本誌で掲載させて頂いたショップ紹介の記事の中でも「カスタムが好きすぎて」と同時に「自分が理想とするショップがなかったから」と創業の理由を語っていたが、ハイエンドからバガ、そしてライトカスタムなどあらゆる顧客層に対応する守備範囲の広さは、あくまでもユーザー目線を忘れない岡本氏の姿勢の随分な証でもある。

実際、トライジャがオリジナルでリリースするパーツをこの企画の為にカウントしてみたのだが、その数は何と436点。スポーツスターやタイナ、ツアラーモデルにソフトテイルなどH-Dの大船に沿って揃っているのはもちろん、フレーム形状が特殊ゆえ、正真正正、カスタムパーツとして扱われるようなソフトテイルロフカー用のパーツなども細かく用意され、多くのユーザーの要望に応えるものとなっているのだが、中でも同店が得意とするプレイアウト用のパーツは160点を数え、単一車種用とは信じがたいラインナップを誇っているのも驚くべき点だ。

ちなみにその体制を具現化する為にトライジャでは通常のショップのような



Excalibur

エクスカリバー

トライジャ
TEL.072-970-3110
<https://tjya.com/>

驚愕のクオリティを見せる純正ベースの合法カスタム

ストロークより大幅に延長されたフロントフォークや、それに合わせてフレームにストレッチが施されたチョップバーと聞いて、このページを読んでいる貴方なら一体どんなイメージを思い浮かべるだろうか？ たゞしば「カウジはいけど乗り辛そう」やら「予算がかりそう」などのネガティブなイメージを抱く方も中には多いと思うが、正直、特によく耳にするのが「車検に通るか」や「合法か否か」という部分。確かに生まれた背景から考えても、ある意味、法律というものを超越した「グレ」な部分をチョップバーという乗り物は持ち合わせているのだが、しかし、いつまでもチョップバーの世界の住人自身が「マイノリティでアウトローな存在」と向き直るばかりでは、この先の未来、きっとこのカルチャーが続くことはないだろう。

無論、そうした中、あくまでも「法規に基づいて」チョップビルドに尽力するビルダーも存在するのだが、大阪のトライジャが製作したこの「エクスカリバー」と名付けられた一台にしても然り。2006年のヘリテイジスプリンガーをベースにし、正しく改造申請の手順を踏み、合法的にカスタムが施されたこのマシンには、たとえ陰影を強調した車体のボディワークや細部の造り込みなど見るべき箇所が山ほどあるのだが、何より評価すべきは公道でのテストを幾度となく繰り返して、車体の強度とディメンションが正しく追求されている点だろう。まさしくそれこそがプロとしての矜持だ。

かつて欧州を平定したアイサー王が手にした伝説の聖剣……その名を冠したこのマシンには裏街道ではなく王道のものとにチョップバーの未来を切り拓いていく気概が込められているのかもしれない。

2006年式PLS150Cヘリテイジスプリンガーをベースにしているものの純正をおさつたことが信じがたい程に驚愕のクオリティを見せつけるこのマシン。車体の立体的な陰影を強調する為、あえてソリッドなメタリックにペイントされた車体は改造申請済みの場合で、ストレッチされたフレームやドラゴンスプリングもあくまでも法規に則ったもの。クワッチやブレーキはもとよりフェーエルラインに至るまで「隠し」が施されたディテール各所にも息をのむクオリティが各々見られている。ハンドルに添はせたインジケーターランプや300サイズのタイヤ幅に合わせ、フロントで製作された二次ドライブシャフト、スイングアームに内蔵されたウインカーやターナルランプなどの灯火類など、すべてに於いて妥協と呼べる要素が、あらゆる意味で見つからない点は流石である。これぞプロの仕事だろう。



Dr. Tekill & Mr. Hyde THE EXHAUST

JMCA 政府認証マフラー

国土交通省 事前認証制度 ガス検・騒音検査等に事前合格

21.Minimal Forward Wide Brushed Headerset for Softail 2018up Twenty-One Brushed Stainless Steel 4.7 Slashcut Bronze

車検対応の音量可変式スリップオンマフラー電子制御エキゾーストシステム

Table with 6 columns: Touringファミリー, Trikeファミリー, Softailファミリー, Sportsterファミリー, VRODファミリー, CVOファミリー. Lists motorcycle models and years.

2021年以降のモデルも順次ガス検・騒音検査等を受け、JMCA取得をいたしております。

2021年4月現在

～大変申し訳ございません。直販は承っておりません、お近くの取扱店にお問い合わせください～

取扱店一覧 (順不同)

- List of dealerships with addresses and phone numbers across various regions like Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc.

スマホで簡単お見積り



https://configurator.jekillandhyde.com/jp